

### 3. 国家概要

#### 3.1. 地理・地形

カザフスタン共和国は、中央アジアに位置し、国土面積は、272.7 万 Km<sup>2</sup>。アルゼンチンに次いで世界第 9 番目、日本の約 7 倍であり、旧ソ連邦時代はロシアに次いで国土面積の広い共和国であった。ロシア、中国、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタンと国境を接し、国境の距離は、約 12,000Km。最西端のアジアとヨーロッパを分けるウラル川が国内最西端のアティラウ州を流れているため、わずかな地域だがヨーロッパの最東部としても位置付けられる。

広大な国土面積のためカザフスタンの地質は、変化に富んでいる。北西部は、氷堆積層の窪地 (Depression) と標高 354m のプレ・ウラル台地の南端に属し、平坦な沿カスピ低地が南方に広がっている。南西部は、不透水の空洞と粘土層が重なったマンガシラック半島塩低地で構成されており、南部には表層が石灰岩層で構成された標高 150-200m のウスチウルト台地が広がっている。北東部は、ウラル・ムゴザール連山の尾根の南端から広がるトルガイ台地で構成され、南に移動するにつれ「赤い砂」を意味するキジルクム砂漠のあるトゥラン低地に変わっていく。また、「黒い砂」を意味するカラクム砂漠は、アラル海北部に達している。中央部はなだらかに起伏しているカザフ高原が広がっており、その南側は「空腹の草原」を意味し、国内で最も乾燥していると言われているベットパクダラ砂漠につながり、その南側はモインクム砂漠、東側はバルハシ空洞とサル・イッシック・アティラウ砂地に続いている。バルハシ湖の南側はイリ空洞、北側はサシコル・アラコル窪地 (Depression) で構成されている。

国土の約 10%は、山岳地である。北東部には、ベルカ山 (標高 4,506m) を含むアルタイ山脈があり、南部から南東部には西天山山脈がある。西天山山脈には、ザイリスキー・アラタウ山 (標高 4,973m)、タラスキー・アラタウ山 (標高 4,488m)、カン・テングリ山 (標高 6,995m) など標高の高い山がある。

旧ソ連邦からの独立後、ロシア、トルクメニスタン、ウズベキスタン、中国およびキルギスと国境の制定について協議を行ってきたが、2005 年にロシア、トルクメニスタン、ウズベキスタンと国境の制定について合意が得られた。ただし、カスピ海については、ロシア、アゼルバイジャンとのみ個別に領海について合意した。



图 3.1 标高图

### 3.2. 気候風土

年間の気候は冬季に発達するシベリア高気圧と偏西風による低気圧攪乱の相互作用によって決められ、山岳地形の配列によって生じる局所的な降水の相違によって特徴づけられると言われている。北部はシベリアの、南部は中央アジアの気候に影響されるため、南北の気温の幅は広く、中・北部における冬季の気温はマイナス 40 度まで低下し、夏季はプラス 40 度まで上昇する。年間降水量は、南部のキジオルダの 129mm からアルマティの 616mm と幅があり、山岳地帯では標高とともに 700mm から 1500mm へと増加する。

表 3.1 に南部および北部の代表的な都市であるアルマティと首都アスタナの年間平均気温、図 3.2 および 3.3 に夏期および冬季の気温分布、年間降雨量分布を示す。

表 3.1 アルマティ市およびアスタナ市の気候

月	アルマティ市				アスタナ市			
	平均気温 (°C)		降雨量		平均気温 (°C)		降雨量	
	最低	最高	降水量 (mm)	降水日数	最低	最高	降水量 (mm)	降水日数
1	-11.1	-1.3	33	7.6	-22.0	-12.6	17	3.9
2	-9.5	0.2	38	9.1	-21.8	-11.3	15	3.3
3	-2.4	7.1	62	15.7	-15.6	-5.0	15	3.3
4	5.6	16.5	109	20.4	-2.4	9.3	22	5.4
5	10.9	21.7	104	20.0	5.8	19.6	33	8.4
6	15.2	26.5	58	13.1	11.2	25.3	33	10.4
7	17.6	29.7	35	8.8	13.4	27.0	53	11.6
8	16.3	28.8	27	6.3	10.9	24.3	35	9.9
9	11.0	23.4	28	6.7	5.1	18.6	24	6.8
10	4.6	15.9	59	11.3	-2.1	8.5	30	7.4
11	-3.3	6.2	51	11.9	-11.2	-3.0	21	4.7
12	-8.8	0.4	37	9.1	-18.9	-9.7	20	3.9

出典：World Meteorological Organization







### 3.3. 歴史

アルマティ郊外のコクテュベから紀元前 10-9 世紀の青銅器時代の住居跡が発見されており、アルマティ郊外のイシックにある塚墳墓は、紀元前 5-4 世紀にこの地域で農耕と牧畜を営んでいたサカ族のものと報告されている。

6 世紀から 7 世紀にかけてカザフスタン東部は、中央アジアで勢力を誇った遊牧集団突厥の領土となり、ウイグル族や契丹の進入を受け、13 世紀には、チンギス・ハーンの率いるモンゴル軍に制服された。アルマティ近郊で発見された 10 世紀から 13 世紀のもとのと思われる住居跡からは、タンドリと呼ばれるパンを焼く竈や焼きレンガ、貨幣が発見された。特に、当時流通していたと考えられている貨幣の表面には「アルマトゥ」と記載されており、シルクロードの天山北路のオアシスとして経済活動が行われていたこと示している。

現在のカザフ族は、15 世紀、この地域を支配していたチンギス・ハーンの次男ジョチの子孫に率いられた遊牧集団がアルマティ北部のバルハシ湖から隣国キルギスのイシク・クリ湖周辺で起こしたカザフ・ハンであると言われている。カザフ・ハンは大・中・小のジュズと呼ばれる部族に分かれており、アルマティは大ジュズの領地であった。カザフ・ハンは、17 世紀から 18 世紀にかけて東からモンゴル系遊牧民が起こしたジュンガル帝国の略奪に苦しめられ、南からはコーカンド・ハンの侵攻を受けていたため、当時南下政策を取っていたロシアに支援を求めた。

1854 年、現在のアルマティの地にロシアによりザイリスキー要塞（後にヴェルノエ要塞と改名）が築かれた。1867 年 4 月、ヴェルノエ要塞は、ヴェルヌイと改名されセミレチェ州の中心としての街作りが開始された。

1910 年ヴェルヌイは、アルマ・アタと改名され、ロシア革命後の 1929 年、それまでクジル・オルダに置かれていたカザフ・ソヴィエト社会主義自治共和国の首都がアルマ・アタに移転された。

1991 年 12 月、ソ連崩壊によってカザフスタン共和国が独立国家として誕生した。アルマ・アタは、首都となり、アルマティと改名された。1997 年、国政府は、首都をアルマティから約 1,200Km 北に位置するアスタナに移転することを決定した。